



ごあいさつ

伊丹市国際・平和交流協会 会長 田村 かよ子



平素は伊丹市国際・平和交流協会にご尽力賜り、心より感謝申し上げます。本年、わが国は、明治に改元して150年という節目の年を迎えました。伊丹市では国際交流協会と平和都市推進協議会が一緒になって10周年、ベルギー王国ハッセルト市と国際姉妹都市に、中国広東省佛山市と国際友好都市になり、いずれも33年目を迎えることになりました。長年にわたる市民代表団、学生代表団、行政代表団の相互訪問など、地道な草の根の交流活動の積み重ねによって、ゆるぎない友好関係を構築してきました。昨年は、4月にハッセルト市から行政・市民代表団、5月に佛山市から学生代表団、7月には市民代表団に伊丹市を訪問いただいております。

伊丹市の技術協力により建設されたハッセルト市の日本庭園は、欧州最大規模を誇り、伊丹市とハッセルト市の国際姉妹都市関係の象徴であるとともに、日本文化を紹介する花見、端午の節句、七夕などのイベントが盛んに行われています。1992年の開園以来、延べ150万人以上が来園されており、昨年には日本とベルギー王国、また諸外国との相互理解の促進、友好親善への多大な貢献に対し外務大臣表彰が贈られました。

本年4月にハッセルト市の日本庭園で開催された「スシフェスティバル」では、2日間で1万人が来園され、あらためて日本への関心の高さを感じさせるものとなりました。一方、2016年にベルギービール文化がユネスコ無形文化遺産に登録され、今年も日本の主要都市で「ベルギービールウィークエンド2018*2」が開催され、日本にない多種多様なビールを楽しむことができます。このように、日本でもベルギーへの関心が高まることと存じます。*2 6月大阪、8~9月神戸 他

さて、世界を見渡しますと、昨年「アイキャン」がノーベル平和賞を受賞しました。世界で唯一の被爆国である私たち日本人には、大きな意義のある受賞となりました。

また、今年2月には平和の祭典「平昌冬季オリンピック・パラリンピック」が開催され、その後、文大統領・金委員長の歴史的会談が行われ、東アジア情勢に融和の雪解けが加速しています。揺るぎのない平和な世界の実現を、切に望んでおります。

人は、どの国に、どの民族に生まれるのかを選択する自由はありません。与えられた場所、環境において、たとえ苦難の状況下にあっても未来に向かって行くためには「平和」を欠かすことはできません。

詩人 坂村真民氏の「二度とない人生」の中で、「二度とない人生だから（中略）戦争のない世の実現に努力し、そういう詩を一遍でも多く作っていこう。私が死んだら後を継いでくれる若い人たちのために、この大願を書きつづけてゆこう」と綴られています。

相手の国、文化、習慣、環境などお互いの話に耳を傾け理解する努力、そして何よりも笑顔で挨拶を交わす、握手をする、そんな地道な積み重ねが広がって、やがて大きな「平和」の輪が築かれていくのではないのでしょうか。そのためにも、異文化への理解を深める活動を、「平和」の尊さを、伊丹市民の皆様にも、そして未来を担っていく子どもたちの為にも発信出来るように、伊丹市国際・平和交流協会として取り組んでいきたいと存じます。今後とも甚大なるご協力を賜りますようお願い申し上げます。